

海の向こうから

01



現地隊員レポート①タンザニアから

▼自己紹介

広島市出身の井手豊です。市立高校で保健体育科教諭として勤務し、2024 年 1 次隊としてタンザニア連合共和国 ザンジバルに派遣中です。



▼派遣国について

派遣されている国はタンザニアですが、派遣されているザンジバルについて記します。ザンジバルは2つの島からなり、私はウグンジャ島に派遣されています。本土はキリスト教とイスラム教が 50% : 50%ですが、ザンジバルは島民の 95%がイスラム教を信仰している人たちで、生活習慣や食文化など、イスラム教に沿った生活を送っている人が大多数です。住んでいる人たちもこれまでの歴史を反映していて、アラブ系、インド系の顔立ちの人たちが多く、スートタウン中心地（世界遺産）内はアラブ系の街並みが特徴です。

▼現地での活動内容

州立ザンジバル大学（State University of Zanzibar (SUZA)）の体育教員養成専門課程（2 年）の座学、実技補助をしています。実技指導は現地教員と協力して一緒に実施しています。その他には、日本をはじめとする東アジア地域のことや日本語について指導したり、逆に学生や教員仲間からスワヒリ語を教えてもらったりしています。学生は小中高の「体育」科目で実技をしておらず、座学で学んでいます。そういった経緯から、個人で習っていた種目以外は実技の「授業」が初めてという生徒が多いのが実情です。その関係もあり、投げるボールの強弱や、プレー中の距離感などはこちらの想定と違う場面が多々あります。



▼生活の様子

朝から職場に向かい、授業が終わると帰宅するという流れです。大学なので授業によって日々の活動時間に差があります。また実技の会場が確保されていないために午後から別会場へいくこともあり、かなり変則的でフレキシブルな状況です。夕方前には家に帰り、自炊をして一日を終えます。私の住んでいる地域では夕刻に停電になることが多いので、



太陽が出ている間に生活をするようにしています。週末は基本的にお休みですが、実技の会場手配の関係で土曜日に出勤することもあります。日曜日は市場に新鮮な野菜の買出しに出かけています。長期の休暇には他国からの観光に来た隊員たちとストーンタウン内を歩いて巡っています。

▼食事や文化について

普段はイスラム教に沿って生活をしている人々が多いため、私もその時間軸や習わしで生活しています。大学でもドレスコードが定められています。多くの女性は肌の露出を控えた服装で過ごし、男性も半パンはほとんどいません。島内のいたるところにモスクがあり、明け方の 5 時過ぎからお祈りの放送がかかり、お昼過ぎや 16 時前後の授業の合間にモスクにお祈りに出かけ、戻ってきて授業を続けるといった様子です。ラマダン(断食)の時期などはお店の開店時間も夕方からのみとなり普段の様子とは大きく違います。

食事に関してもイスラム教に沿って豚肉は禁忌の食品とされ、ローカルレストランで目にすることはありません。本土では食事の際に「ウガリ（トウモロコシの粉とお湯でこねた食べ物）」をよく食する人が多いですが、ザンジバルではお米を主食として食べる人が多く、お米の種類も日本米に似たものがあり、私としてはかなり助かっています。島のこれまでの経緯から様々な歴史と民族、宗教が入り混じっている独特な文化をもっているのがザンジバルです。

02



現地隊員レポート②ベナンから

▼自己紹介

呉市出身の中本千晶です。看護師として約 8 年間病院勤務の後、2024 年度 1 次隊看護師隊員としてベナンの保健センターに配属されました。

▼現地での活動内容

ベナンのジャコトメ市で活動しています。西寄りで隣国トーゴに近い場所です。ジャコトメ保健センターにはマラリアや下痢症状を訴える患者さんが多く、毎日たくさんの患者さんが来院します。薬を購入できない患者さんも多くいることを知り、私は病気の早期発見よりも予防することのほうが大切だと考えました。現在は村に訪問し住民にマラリア予防や手洗いの啓発活動をしています。

また、ベナンの女の子たちは月経期間中にナプキンが入手しにくいことや生理痛といった直接的な問題だけでなく、就学を続けられずに退学に至ることや若年妊娠など、様々な困難に直面しています。こうした状況を知った隊員数人で、布ナプキンのワークショップや月経に関する啓発プロジェクトも行っています。

▼生活の様子

私の家は保健センターから徒歩 15 分の場所にあります。長屋で、10 組ほどの家族がいます。中庭では毎日みんなで集まっておしゃべりをしています。ベナン人は、血が繋がっていなくても家族の一員という気持ちが強く、人とのつながりを大切に



いるのが伝わってきます。

近くにはマルシェがあり、4日に1回開催されます。マルシェでは主に食材を調達します。小さいマルシェなのでバラエティーに富んだものはありませんが、とても賑わいます。

ベナンでは、トウモロコシの粉を練って作った「パット」が主食です。トマトソースやオクラソースと一緒に食べます。みんな手を使って上手に食べます。飲み物は、ヤシの木から作られたお酒がよく飲まれます。



▼食事や文化について

また、ベナンにはブードゥー教というこの国発祥の宗教があります。ブードゥー教は黒魔術のイメージがある人もいると思いますが、地元の人々に根付く大衆的な宗教です。ブードゥー教は自然崇拜、先祖崇拜、他様々な精霊を信仰します。樹木や岩、妖精や鬼もまた神とされていて、八百万の神々を信仰する日本の神道の宗教観に似ています。先祖が宿っている木の幹には白い布を巻いて示します。その先祖へのお供え物として、動物の生贄を捧げます。ベナンでのブードゥーの祈祷で使われる動物やその骨などがマルシェで売られています。



03

派遣前アンケート

訓練所から派遣前の想いを任国で形にできるよう、アンケートをとりました。

現隊員のみなさん、派遣直前はどんなことを考えていたのでしょうか。

アンケート内容

①名前 ②隊次 ③職種 ④派遣国 ⑤応募したきっかけ ⑥訓練所での辛かった思い出 ⑦訓練所での楽しかった思い出 ⑧2年間の活動中に挑戦したいこと ⑨出国を控えた今の心境 ⑩これから2年間の活動に向けての意気込みを一言！



①中島祐一②2024-2 次隊③小学校教育④ガーナ⑤海外での経験を得たいと考えたため⑥辛かったことは特にありません。⑦訓練所でできた仲間と飲みに行ったこと⑧今までやったことのないことに挑戦すること。⑨楽しみです。⑩健康に気をつけて、活動を充実させます



①藤井愛華②2024-2③青少年活動④コロンビア⑤小さい頃から興味があったから。現地の方と一緒に暮らさないと課題について理解できないと思うから⑥なかなか周りの人との関係構築のベストな形がわからなくて不安になって悩んだことと、現地での危機管理(防犯、交通安全、健康な

ど)について学んだ際にその厳しさに怖くて逃げ出したくなったこと⑦語学クラスのみんなで駒ヶ根訓練所のまわりのいろんな場所に行って一緒に美味しいものを食べたこと。音楽が好きな人で集まって音楽会をしてたくさん訓練生にアンサンブルや合唱を聴いてもらったこと⑧現地の方々と一緒に音楽がしたい！教育現場の生の声が聞きたいです⑨行くまでの準備や行ってからの生活が不安だったけど、何より自分が1番の不安材料でした(怪我する意識の低さ)。これ以上何もやらかさないように慎重に安全に健康に過ごして、無事に一緒に訓練した仲間と派遣国に行きたいです！⑩ラテンの文化に触れる中で、ありのままの自分を肯定でき、おおらかにしなや

かに強い人に少しでも成長できたら嬉しいです。とにかく安全に元気に過ごせるよう気をつけて、楽しんで暮らしていきたいです！



①清水紀之②2024-2③理学療法士④キルギス⑤理学療法士、サッカーに特化した要請に行きたいと思ったから。⑥特にありません。⑦毎日の生活全てですが、様々なバックグラウンド、年代の方との繋がりが持てたことが1番の財産だと思います⑧できる事は全部やります！仕事、旅行、遊び！⑨ワクワクしかありません。⑩なんとかなる！



①内山温子②2024-2③コミュニティ開発④ドミニカ共和国⑤いわゆる開発途上国と呼ばれている国に学生の時に初めて行き、たくさんの人の温かさに触れました。知らない世界をもっと知りたい、もしできるなら一緒に活動したいという気持ちが忘れられず今回応募に至りました。⑥集団生活の中で、コミュニティを大事にしつつ勉強に励むことがしんどかったです。初めての言語(スペイン語)をもっと学びたい気持ちと、そこでできた仲間と交流を深めたい気持ちが同じくらいあったので、選ぶことが難しかったです⑦スペイン語のクラスの思い出がたくさんあります。クラスメイトとは週末に山に行ったり、週末に飲みに行ったり、授業でも濃い思い出がたくさんですが、授業外も交流を深めました。また、先生が大好きすぎて最終日は号泣しました⑧現地のローカル料理を作れるようになったり、ドミニカ共和国発祥のダンス(メレンゲ)を楽しんだりしたいです⑨まだ実感湧きませんが、想像以上に楽しいこと想像以上に苦しいことが待っていると思っています。どうであれ2年間全うできたらいいなという気持ちです⑩どんな経験も自分が【させてもらっている】という感謝の気持ちを忘れずに頑張ります！



①森脇実穂②2024-2③観光④ペルー⑤海外でチャレンジしてみたいと思ったからです。⑥忘れ物や用事を思い出す度に、居室と教室の道のりにある階段を往復したことです。⑦仲間と山に登ったり、観光したり、訓練地の長野県を堪能できたこ

とです。⑧現地のユニークな料理を食べたいです！⑨わくわくしています！⑩現地でたくさんの人と関わりながら、自身もしっかり現地に染まって活動できたらと思っています！



①伊豫谷香南子②2024-3③青少年活動④ザンビア⑤もともと懂れていた⑥語学⑦談話室⑧インスタ⑨どきどき⑩マイペースに楽しむ



①森下博史②2024-3③電気電子機器④ウガンダ⑤社会貢献⑥訓練⑦訓練生間の交流⑧語学力の習得⑨明鏡止水⑩任務を着実に遂行する



①吉井育子②2024-3③高齢者介護④エクアドル⑤説明会に参加したこと⑥スペイン語訓練⑦いろいろな自主講座に参加できたこと⑧スペイン語マスター⑨緊張とワクワク⑩余り気負いすぎずいろいろな違いを楽しみたい



①河村純也②2024-3③数学教育④ドミニカ共和国⑤海外で数学の授業をしたいと思ったからです。⑥毎日のように行われる語学訓練⑦門限や課題などで時間に制限がある中、生活班で観光したりレクリエーションしたりしたこと。⑧平和をテーマにした授業の提案と実施⑨楽しみ⑩生徒が楽しく学べる授業を提案します。



①糸原侑那②2024-3③コミュニティ開発④タンザニア⑤知人の勧め⑥語学(スワヒリ語)の学習⑦同期隊員との団欒の時間⑧キリマンジャロに登りたいです！⑨あまり実感はありません。⑩広島の平和の心を胸に行ってきます！



①東沢虹呼里②2024-3③青少年活動④ヨルダン⑤学生時代から関心のあったパレスチナ問題の解決に貢献したいと考えたため。⑥アラビア語(もちろん楽しかったです！！が、追い込まれて辛かった…)と枕。⑦アラビア語クラスと生活班のみんなとのたくさんの思い出！⑧たくさん友達を作る！⑨Kindleを買うかいまだに悩んでいます…(出国5日前)⑩笑顔を忘れずに頑張ります！



①中堀敬三②2025-1③防災・災害対策④エルサルバドル⑤第二の人生を探すため⑥語学でプレゼンすること⑦駒ヶ根フェスに参加、観覧したこと⑧全国を旅行したい⑨楽しみな反面…⑩エルサルバドル人になりきってくるぞ！



①湯川綾②2025-1③野菜栽培④コスタリカ⑤大学 3 年の夏に行ったスリランカで衝撃を受けて、もっと世界の野菜栽培事情を知りたいと思ったから。⑥語学に集中できなくなった時期もあったが、それよりも訓練生が企画した文化祭で漫才を披露して、その漫才のネタづくりが大変だった。（最終的には楽しかったし、達成感もありました）⑦最後の週末に行った生活班での旅行⑧コスタリカのいろいろな野菜を育てて、食べてみたい。⑨訓練所を退所するときは不安とか緊張もあったけど、今は楽しみな気持ちも大きい。⑩2年間、健康に過ごして、元気に笑顔で帰国します！



①原田菜摘②2025-1③青少年活動④ケニア⑤学生時代に滞在して大好きになった東アフリカで草の根支援に携わりたかったから⑥早起き＆朝ごはん(習慣がなかったので…)⑦二本松同期隊員でオリジナルポロシャツを作ったこと⑧活動にも活かせる裁縫を習得したい！キテンゲ(アフリカ

布)を使った小物を作れるようになりたいです。平和プロジェクトにも取り組みます！⑨明日にでも行きたい！⑩活動はできることをコツコツと取り組み、任地の人々に愛される隊員を目指して、積極的に現地ライフを楽しみます！



①下郷柚希②2025-1③青少年活動④キルギス⑤小学生の頃に隊員の方から話を聞いてから協力隊に憧れていましたが、大学卒業時はコロナ禍で募集停止していて断念。しかし高校で教員として働く中で、生徒が自分の夢に向かって頑張る姿に刺激を受け、私も諦めたくない！と思い応募しました。⑥語学の勉強。辞書や参考書がほとんどなく、ChatGPT に聞いても大体間違っているのでマイナー言語を学ぶ難しさを痛感しました。⑦駒ヶ根訓練所では朝の体操が週ごとに変わっていて、その中のひとつだった「レゲエ体操」。2025 年度 1 次隊の駒ヶ根訓練所訓練生は音楽聞いたらみんな踊り出すと思います！⑧コムズ(キルギスの伝統楽器)を弾けるようになること。⑨日本での諸々手続きと荷造りだけ心配ですが、任地での生活は楽しみでしかありません！⑩配属先でもプライベートでも、いろんなことに挑戦したいと思います。現地での生活を楽しみながら、ほどほどに！頑張ってきます。

04

広島県 JICA デスクからのお知らせ

2025 年 9 月より、外国人材受入・多文化共生分野の国際協力推進員が広島県に配置されました。東広島市を拠点に岡山・広島・山口地域を担当することになります。

梶 広大 (こうじ こうだい) さん

国際協力推進員 (外国人材受入・多文化共生分野)

ミクロネシア/小学校教育 OV

広島県内で国際協力や JICA、多文化共生に絡めて実施したい内容やイベントがありましたら、広島県 JICA デスクまでご連絡ください！



広島県 JICA デスク (新庄) jica_hiroshima_desk@jica.go.jp 080-2934-8494

最新情報は JICA 広島デスク Facebook ページから！



2024 年 11 月 15 日
2024 年度 2 次隊 壮行会・表敬訪問



2024 年 11 月 24 日
国際フェスタ



2025 年 2 月 15 日
家族連絡会・総会



2025 年 4 月 11 日
2024 年度 3 次隊 壮行会・表敬訪問



2025 年 5 月 3 日
フラワーフェスティバル パレード参加（協力隊 60 周年イベント）



2025 年 7 月 14 日
2025 年度 1 次隊 壮行会・表敬訪問



2025 年 8 月 14 日
子ども未来フェス in 福山

翔べ！ JICA 海外協力隊 60 周年

—広島から平和を願い、笑顔の花を咲かせよう—

2025 年 5 月 3 日、晴天のもと、JICA 海外協力隊派遣 60 周年の節目を迎える今年、被爆 80 年を迎える広島で開催された「ひろしまフラワーフェスティバル」のパレードに、JICA 中国と青年海外協力隊広島県 OB 会が協力して参加しました。このフラワーフェスティバルは、広島 の 5 月を彩る一大イベント。平和大通りや平和記念公園周辺を舞台に、世界とつながる“平和の花の祭典”として毎年開催されており、今年も 100 以上の団体、8,000 人を超える参加者が、華やかな衣装と演出で約 1.2km のパレードを盛り上げました。



9 年ぶりのパレード参加となり、すべてが手探りの状態からのスタート。予算のない中での参加のため、参加者の皆さまには参加費のご協力をいただき、パレード参加に必要な団体保険の加入や、花のコサージュ、旗の材料などを 100 円ショップ等で調達するなど、文字通り手作り感満載で、頼りになる仲間たちと共に、出発直前まで、熱く準備に奔走しました。当日は、中国 5 県をはじめ、東京、大阪、さらには遠く福島から集まった海外協力隊経験者とそのご家族、JICA 研修員、JICA 職員ら総勢 80 名が集結。各国の言葉で「平和」と書かれた旗を掲げ、世界の平和への想いを胸に、平和大通りをパレードしました。沿道にはたくさんの笑顔があふれ、「平和」と「笑顔の花」が咲き誇る一日となりました。ご参加いただいた皆さま、応援してくださった皆さま、本当にありがとうございました。



なお、パレードで使用した旗やバスの装飾デザインは、キルギス OV のビーバーズ優さんによるもので、平和への想いが込められた素敵なデザインが、参加者と観客の心をつないでくれました。参加した OV からは、「参加できてよかった。楽しかった」「子どもたちにとって一生の思い出になった」との嬉しい声が寄せられました。

被爆 80 年を迎える広島の地から、参加者一人ひとりが「平和とは何か」を見つめ直し、その大切さを世界中に発信することができたと感じています。広島から世界へ——この平和への祈りが、広がっていきますように。



2002 年度 1 次隊 タイ 青少年活動 井上和恵

2026 年 2 月 7 日（土）に家族連絡会・総会を開催します。お久しぶりの方も、初めての方もぜひお越しください！場所は、広島市留学会館です。11 時過ぎから準備を行い、家族連絡会は 13 時～15 時、総会は 15 時過ぎ（家族連絡会が終わり次第）開始となります。総会の議決権は、会費（2,000 円／年）を支払った人が有します。会費を支払っていなくても、総会やイベント等には参加ができます。積極的にご参加ください。

青年海外協力協会(JOCA)の動向について（情報共有）

広島県安芸太田町で地域を結ぶ交流拠点「月ヶ瀬温泉」を開業した JOCA。おいしい蕎麦を堪能した方も多いと思います。広島県 OB 会としては JOCA×3 (安芸太田)との良好な関係の継続を希望していますが、徐々に疎遠になっています。また、全国組織としての JOCA とは、距離を置く方向です。その経緯を説明します。

2025 年 6 月 21 日、駒ヶ根にて JOCA の総会が開かれ、評議員である各県 OB 会長が参加しました。昨今の運営状況について出された質問について、回答主旨は次の通りでした。

質問① 総会を経ずに、令和 7 年度 JICA 事業（隊員募集説明会）への入札を不参加とした理由。

回答：何を言う（重要と思う）かは、人によって主観がある。

質問② JOCA 全体の事業における、JICA 事業の割合、具体的な数値目標について

回答：数値目標はない。数字ではない。来年になったら方向性は変わるかもしれない。

質問③ JOCA 役員の退職について

回答：ふさわしくない契約行為があり、賞罰委員会により辞表を受理した。

質問④ 本総会の議事録共有希望について

回答：「わかりました。」（11/23 時点で共有なし）

質問⑤ JOCA 職員の大量退職の現状と、大阪事務所の正規職員不在による機能不全について

回答：全国で 20～30 人ほど退職。

大阪事務所は、JICA 事業に応札しなかったため、業務縮小。

職員には能登拠点への配置転換を提案したが辞退した 6 名が契約期間満了により退職。

上記のような誠実さを欠く回答に加え、今回の総会はオンライン公開も中止されました。さらに役員全員が懇親会を欠席して各県 OB 会長との接触を避けるなど、役員の誠意と運営の透明性に疑問を抱かざるを得ません。

今回の情報共有は、JOCA への就職や、JOCA が主催する能登の災害ボランティアへの参加を広島県 OB 会として妨げるものではありませんが、十分情報収集をした上、個人の判断で行ってください。

青年海外協力隊 広島県 OB 会 連絡先

会長：竹内英祐(平成 20 年度 4 次隊 ウガンダ 土木) / 事務局長：上野寛治(平成 21 年度 2 次隊 ドミニカ国 音楽)

メールアドレス:info@jocv-hiroshima.sakura.ne.jp (お問い合わせはこちらへ)

任国滞在中の広島県出身隊員数: 20 ヶ国 27 名(2025 年 12 月末時点)

青年海外協力隊広島県 OB 会会報誌 第 46 号 2025 年 12 月発行 編集・発行:青年海外協力隊広島県 OB 会 (原則)毎年 1 回発行